



ARO協議会 第11回学術集会

会期：2024年 **9月20日(金)・21日(土)**

会場：**神戸国際会議場** (ポートライナー 市民広場駅下車)

会長：**川本 篤彦** 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター センター長



AROの多様性と可能性



共催セッション3:社会共創(AMED社会共創EXPO - ARO協議会 共同企画) 対話で「社会共創」を協奏しよう! ~AROの一步、わたしの一步~

9月21日(土) 15:30~16:30 第2会場(4F 401)

座長:堀江 奈穂(北海道大学病院 臨床研究開発センター)

座長:小村 悠 (国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門 / 医薬品開発推進部門)

概要

約50年前の敬老の日、ある地方鉄道の職員が「高齢者や体が不自由な人へ何か役立てないか」と思い付き、シルバーシートを設置してみたそうです。その鉄道職員の「想い」は、「優先席」として全国の公共交通機関に広まり、今日に至ります。

私たちからみて、臨床試験をはじめとする研究開発はどうでしょうか。ダイナミックに展開される計画やプロセス、生み出される成果に、私たち一人ひとりの「想い」が着実に繋がっているとは実感しにくいかもしれません。そのような中で、研究開発を社会と共に創り、研究開発で次の社会(未来)を共に創っていくことを目指す「社会共創」とは、一体どのような取組なのでしょうか。

この特別企画では、演者からそれぞれの立場での「社会共創」について話題提供をし、対話を通じてそれぞれの考えを深めます。事前知識も立派なシステムの構築も不要です。それぞれ有する楽器は異なるのに、音を重ねると素晴らしい音楽を奏でることができるオーケストラのように、本企画で「社会共創」という音楽を参加者全員で思いのまま協奏してみて、それぞれが「マイ・社会共創」を持ち帰ることで、明日からの一歩になればと思います。

医療研究開発の「社会共創」とは

演者:勝井 恵子(日本医療研究開発機構(AMED) 研究開発統括推進室 研究開発企画課 社会共創推進グループ)

学び続ける強さ:治療を受ける大学生としての挑戦

演者:藤井 大輝(関西大学)

「社会共創」に関するアカデミアでのチャレンジ例

演者:堀江 奈穂(北海道大学病院 臨床研究開発センター)

ファシリテーター:小村 悠 (国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門/医薬品開発推進部門(併任))

ファシリテーター:今野 浩一(PMラボ ポジティブ・インテンション)